

## 2. 長谷川式認知症スケールと認知症受診歴との関連

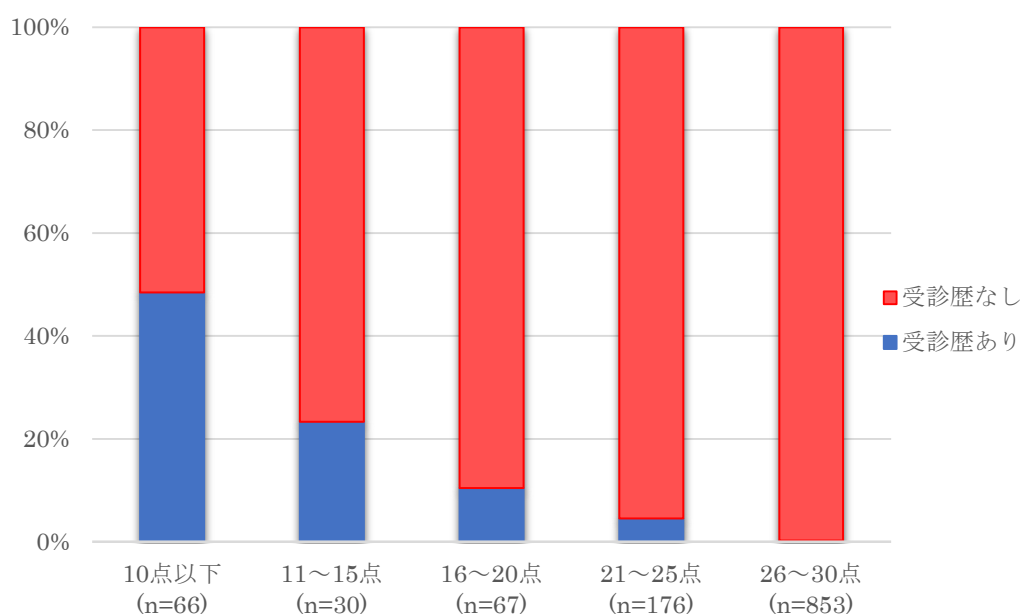
～認知症疑いの方の約7割は過去に認知症での受診歴がない～

認知症は予防することに加え、早期発見・早期対応が重要です。しかし、地域において認知症疑いがあるにもかかわらず医療機関を受診したことがない人がどの程度いるかは明らかになっていません。長谷川式認知症スケールと受診歴から、未受診の認知症の人がどの程度いるのかを調べました。

富山県の65歳以上の高齢者から無作為抽出により選ばれ、回答の得られた1192人のうち、長谷川式認知症スケール（HDS-R）20点以下の「認知症疑い」の163人のなかで、認知症受診歴がない人は117人（71.8%）でした。10点以下の高齢者の認知症受診歴は48.5%、11～15点では23.3%、15～20点では10.4%、21～25点では4.5%、26～30点では0.2%でした（図1）。

認知症の疑いがあっても、認知症で受診をしたことがない高齢者が地域にはたくさんいる実態が明らかになりました。認知症健診などの早期発見・早期対応のための施策が必要であると言えます。

（図1）HDS-Rの点数と認知症受診歴の関係



出典：平成26年度富山県認知症高齢者実態調査追加分析報告書